

立川第七小学校 道徳授業地区公開講座

すべての子供たちが輝くために ～こどもが困っている時の上手な対応の仕方～

日本授業UD学会幹事
元明星大学発達支援研究センター
元日野市立日野第三小学校
京極 澄子

2025. 2. 15

高校生の意識調査

国	割合
日本	?
米国	88.5%
中国	90.6%
韓国	67.8%

国	割合
日本	?
米国	45.1%
中国	55.4%
韓国	35.2%

(財)国立青少年教育振興機構「高校生の生活と意識に関する調査報告書」(2015年8月)

小中不登校 最多34万人 長期化・低年齢化

- 学校生活にやる気が出ない(32. 2%)
- 不安・抑うつ(23. 1%)
- 生活リズムの不調(23. 0%)
- 学業不振や頻繁な宿題未提出(15. 2%)
- いじめ被害を除く友人関係の問題(13. 3%)
- 親子の関わり方(17. 4%)

○子どもたちによる学校への「不信任」にほかならない。
○学校が子どもの多様なニーズに応える教育を進める

社会生活で、困難さにつながりやすい特性

・暗黙のルール
・相手の気持ち
・場の空気
・比喩や皮肉など

コミュニケーションが苦手

こだわりが強い

不注意

多動性・衝動性

読み書きが苦手

計算が苦手

・うっかりミス
・忘れ物

・じっとしてられない
・刺激に反応

頑張っても、うまくいかない
二次障害が起こる(うつ・不安・無気力・いらだち・不登校)

認知イメージ

100

中枢神経系(脳)の機能特性

100

100

○本人の努力不足ではない
○しつけの問題ではない

・困った子 = 本人が一番困っている子

人は誰でも持って生まれた特性がある

社会的な有利ならば **才能**
社会的な不利も有利もなければ **個性**
社会的な不利ならば **障害**

「やりづらさ」は、環境とのミスマッチ

- 個々の凸凹が環境(人的環境、物的環境、制度、文化など)とマッチしないとき、何らかの困難さが起こる。

青山(2016)



状況(環境)を整えて困ることを減らす

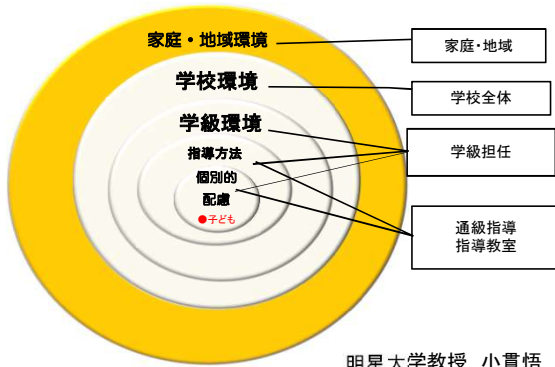
教育におけるユニバーサル・デザイン

困難さを感じている子にとって、
参加しやすい学校、わかりやすい授業は、
他のすべての子にとっても、
参加しやすい学校であり、
わかりやすい授業である。

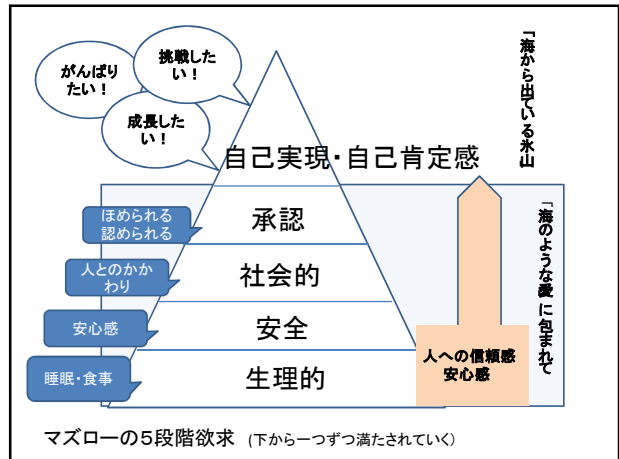
多機能トイレ G



子供を中心にした「包み込むモデル」

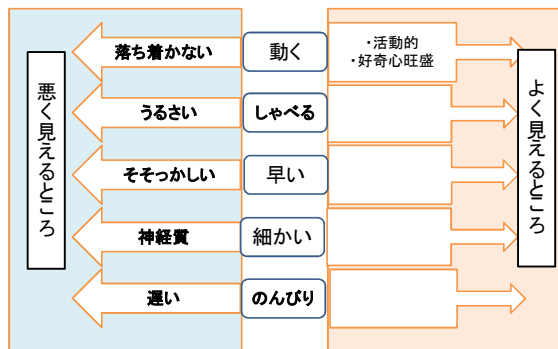


明星大学教授 小貫悟



マズローの5段階欲求 (下から一つずつ満たされていく)

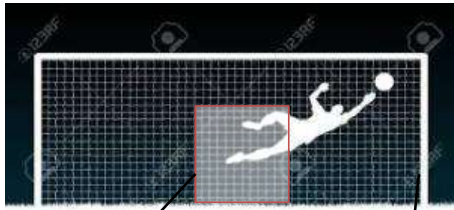
「よさ」を見つける練習



ほめるスキル

- ①事実をほめる
◎「宿題を毎日やるようになってすごいね」
- ②メッセージでほめる
◎「ママ、〇〇ちゃんがお友達に優しい言葉をかけていたので感激したよ！」
- ③プロセスをほめる
◎何度も漢字の練習してがんばったね。立派だよ。
- ④小さいこともほめる
◎「いつもお箸をそろえてくれてありがとう。母さん、助かるわ」

子供理解の「**守備範囲**」を広げよう！



- | | | |
|--|---|--|
| <p>守備範囲が狭いと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子供の言動のちょっとしたことが許せない ○対応できない時に子供のせいにする | ➔ | <p>守備範囲が広いと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子供の成長のちょっとしたことに気がつけなくなる ○対応できない時に自分を磨き、次は対応しようとする |
|--|---|--|

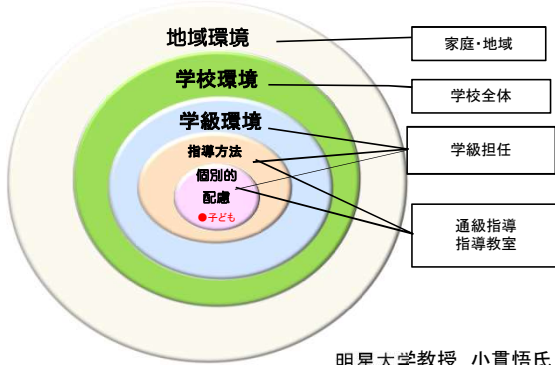
矢口特別支援学校 川上 康則先生

- **あなたは、悲しくなったり、つらくなった時どんな方法で自分を守るの？**

おばあちゃんに「ギュッとして」言うよ。
 おばあちゃんに「ギュッとしてもらおう」
 安心するんだ！
 おばあちゃんは、何かしていても、
 僕が「ギュッとして」言うと、やってることをやめて、すぐに、ギュッとしてくれるんだ。

お母さんをなくした3年生の男の子の話

子供を中心にした「**包み込むモデル**」

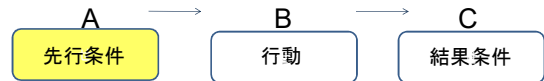


明星大学教授 小貫悟氏

環境を整えて、**ほめられるサイクル**をつくる



Aなし→Bぐちゃぐちゃ→靴がない！ Aシート用意→B→Cすぐ見つかった！
(わかりやすくてがかり) (成功体験) (ほめられる)



「**子どもが困っているときの対応の仕方**」

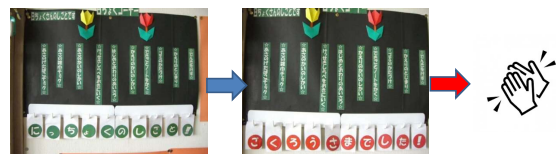
子どもの行動には
 何らかの理由や背景があり、
 それがわかれば対応はできる。



Aさんは、生活のルーティンが身につきません。毎日、お母さんとバトルです。

- やることがたくさんあって覚えていられない？
 - めんどくさい ■ お母さんがうるさい！
- <どう対応すればいいの？>

- ◎具体的に視覚化する ◎「できた」確認



* 視覚のものを手がかりにするのは、大人の社会でも常識

Bさんは、授業が始まって、後ろの棚のカブトムシが気になって座ろうとしません。

■興味のある事へのこだわりが強い？

＜どう対応すればいいの？＞

◎命令や指示ではなく、**合意をつくる**
「3分間・5分間どっちにする？」→守れたら◎

◎**こだわりへの交渉術**
「カブ君は、お昼寝の時間。休み時間に遊ぼう！」

・認知症の方も交渉術が鍵。

◎大人が行動を予防するための工夫をする

カブ君のお昼寝時間
8:50～10:25
20分休みはOK!
10:45～12:20

Cさんは、友だちとトラブルになりやすく、怒って手が出てしまいます。

■気持ちを言葉で表すのが苦手。
■自分の気持ちを分かってくれないといういらだち
→怒り→手が出る

＜どう対応すればいいの？＞

◎叱っても効果はない。穏やかな口調でさりげなく平然と。
◎その場から一緒に離れる。

◎本人が「**理解されている**」と感じる対応をする（安心感）

・～だと思ったのかな？「ウン」
・よく分かったよ！つらかったね！「ウン」

◎今後の作戦を本人と一緒に立てる
・今度、イライラしたらどうするか作戦を立てよう。

自分の気持ちを言葉で表すのが苦手で、衝動的な行動に出してしまう場合の対処法。＜アンガーマネジメント＞

(1) 自分の怒りの状態を捉える練習をする。

怒りコントロール表

怒りレベル	そのときは
4	
3	
2	
1	
0	

(2) 気持ちを落ち着ける方法を練習する。

- ・6秒ルール（6秒待つ）
- ・深呼吸
- ・その場を離れてリセットする。
（行く場所を決めておく。）
- ・「気にしない。」「まあいいか。」「とりかえす。」
- ・落ち着ける物を握る。
- ・歩きながら先生とお話する。

(3) 自分の気持ちを言葉で表す練習

- ・「～なので、教えてください。」
- ・「怒りそうなので、とめてください。」

子どもの行動には何らかの理由や背景があり、それがわかれば対応もできる。

- ・子どもを理解するヒントは、「よく見る」ことから
- ・子どもの特性を理解して、困っていることに**共感する**。
- ・子どもの行動を予想し**成功体験**をさせる。
- ・失敗しても「**まあいいか！**」「大丈夫だよ！」
- ・**心の健康**がすべての土台。
- ・**必要な依存**が自立を助ける

「必要な依存が自立を助ける」

依存を排して自立を急ぐ人は、自立ではなく孤立になってしまう。

『こころの処方箋』 河合隼雄

「自立とは、依存先を増やすこと」

自立は依存しないことではなく、依存できるものを世の中に張り巡らせること。

東京大学先端科学技術研究センター 熊谷晋一郎教授

【援助要求スキル】が使えるように

おすすめたくないコース

- 泣く
- さわぐ
- 逃げる
- やらない
- 暴れる
- 物に当たる
- 隠す
- ごまかす



「ごまった」「わからない」「おずかしい」「思い通りいかない」「不安だ」「つらい」

おすすめコース

- 手伝ってください
- わからないので教えてください
- もう一度言ってください
- 助けてください

安心感が意欲を生む

矢口特別支援学校 川上 康則先生

子供の心には
3匹+1匹のタイが住んでいる

- ① 「 ほめられ 」 タイ
- ② 「 認められたい 」 タイ
- ③ 「 頼りにされたい 」 タイ
- ④ 「 」 タイ

すべての子供たちが輝くために
「わたしの子のよいところは・・・」



子育てを楽しんでください！！